

# 令和4年度 第1回 酒田市地域公共交通会議 議事録

(敬称略)

会議名	令和4年度 第1回 酒田市地域公共交通会議
開催日時	令和4年8月22日(月) 13時30分～
開催場所	酒田市役所 3階 第一委員会室(酒田市本町二丁目2番45号)
出席者氏名 (敬称略)	<p>委員 19名</p> <p>酒田市副市長 矢口明子(会長)          庄内交通株式会社代表取締役社長 村紀明(副会長)          東北公益文科大学学長 神田直弥(副会長)          一般社団法人山形県バス協会専務理事 小関和夫          一般社団法人山形県ハイヤー協会酒田支部副支部長 岡部光子          酒田市自治会連合会会長 阿部建治          酒田市地区自治会連合会会長 土門幸広          松山地域コミュニティ振興会連絡協議会会長 平向與志雄          平田地域コミュニティ振興会連絡協議会会長 佐藤正          特定非営利活動法人酒田市障がい者福祉会監事 池田智恵子          国土交通省東北運輸局山形運輸支局首席運輸企画専門官 加藤知美          私鉄庄内交通労働組合執行委員長 後藤正志          酒田警察署交通課長 鈴木朋宏          国土交通省東北地方整備局酒田河川国道事務所道路管理課長 佐藤浩明          庄内総合支庁建設部道路計画課課長補佐 大川哲          庄内総合支庁総務企画部総務課連携支援室長 小松弘幸          酒田市建設部長 中村良一          酒田市健康福祉部長 白畑真由美          酒田市地方創生部交流観光課長 阿部利香</p> <p>事務局 4名</p> <p>企画部長 中村慶輔          都市デザイン課長 佐藤裕明          都市デザイン課課長補佐 田中洋志          都市デザイン課地域公共交通係長 齋藤武有          都市デザイン課地域公共交通係主事 庄司菜美子</p>
欠席者氏名 (敬称略)	<p>委員 2名</p> <p>八幡地域コミュニティ振興会連絡協議会会長 後藤正一          酒田飽海PTA連合会母親委員会委員長 佐々木みどり</p>
傍聴者	4名(報道機関2名含む)
協議題等	<p>【協議事項】</p> <p>[議案第1号]          生活交通改善事業計画(バリアフリー化設備等整備事業)(案)</p> <p>【報告事項】</p> <p>(1) 令和3年度の酒田市地域公共交通運行状況について          (2) 酒田市地域公共交通計画における数値指標の状況について</p>

会議の要旨	次のとおり
<p>[進行] 事務局（都市デザイン課地域公共交通係長 齋藤武有）</p>	
<p>1 開会</p>	
<p>2 会長挨拶</p> <p>この会議の目的は、より良い公共交通のシステムを実現すること。8月1日に公共交通体系を改編したが、今後も利用者の意見をお聞きしながら、より良いものにしていきたい。</p> <p>市総合計画の後期計画を策定している中、各分野の政策に関するアンケート調査を行っているが、交通の便は4番目に不満度の高い状況となっている。それだけ、酒田市にとってこの会議は大変重要なものであると考えている。公共交通をより良くすることが市民の幸せに直結するものと捉え、引き続きご指導いただきたい。</p> <p>運転手がいなければ運行を続けることができないため、運転手の存在は大変貴重なものとなっている。輸送資源を有効に活用していくためにも、バスやデマンドタクシーのみならず、まずは市内調整をしっかりしながら取り組んでいきたい。</p>	
<p>[進行] 構成員 21 名中、出席者 19 名、欠席者 2 名で過半数の出席があるため、酒田市域公共交通会議設置要綱第 7 条第 2 項の規定により、本日の会議は成立となる。</p>	
<p>3 役員の指名</p> <p>矢口会長  新しい委員任期となるにあたり、副会長には庄内交通株式会社の村委員、東北公益文科大学の神田委員にお願いしたい。監事については、酒田市地区自治会連合会の土門委員、障がい者福祉会の池田委員にお願いしたい。</p>	
<p>4 協議事項</p> <p>佐藤課長 (資料説明：議案第 1 号)</p> <p>矢口会長  特に質問や意見がないようであれば、ご同意いただけるか。</p> <p>各委員  異議なし。</p> <p>矢口会長  議案第 1 号は承認された。</p>	
<p>5 報告事項</p> <p>佐藤課長 (資料説明：報告事項 (1))</p> <p>矢口会長  質問や意見はないか。</p> <p>神田委員  令和元年に比べ、令和 2 年度のるんるんバス利用者が 6 万人程度減少している。新型コロナウイルスの影響と思われるが、運賃を 100 円から 200 円に値上げしたのも令和 2 年度であるため、その影響についてどう分析しているか。</p> <p>佐藤課長  詳しい調査は行っていない。運賃の値上げについては、事前にアンケート調査を行っているが、概ね理解を得ている状況であった。利用者数の大きな減少について、運賃改定は直接的には影響していないものと見ている。</p>	
<p>佐藤課長 (資料説明：報告事項 (2))</p> <p>矢口会長  質問や意見はないか。また、8 月 1 日に実施した改編に対する反応や感想などあればお聞かせ願いたい。</p> <p>阿部建治委員  酒田駅前のミライニは、高齢者などの居場所づくりの面ですばらしい施設だと感じている。観光客からも駅前がとてもきれいになったとの声があり、バス停留所もできたので、今後、良くなっていくと思う。</p> <p>現在の回数券は紙でできているが、キャッシュレスにならないものかといった話があった。便利で簡単なものになるよう検討してほしい。</p>	

- 佐藤課長 ミライニが 7 月 31 日にグランドオープンし、図書館機能をはじめ、多くの方々から利用いただいている。図書館長からも、夏場のクールシェアという意味合いを含め、有効に利用していただきたいという話があった。  
ミライニ前に整備した停留所には、路線バス、高速バス、デマンドタクシーが経由するため、従来よりもわかりやすく、使いやすいものになっている。皆さんからも周知していただきたい。  
キャッシュレス決済については、山形県が先行し、Suica を活用した Cherica というシステムが始まっている。本市でも、Suica 以外の媒体を含め、費用対効果などを検討している。市内の商業振興を目的として PayPay を活用した取り組みが行われているが、シニア層の利用も増えており、キャッシュレス決済が浸透してきているようである。
- 土門委員 デマンドタクシーは主として高齢者夫婦や一人暮らしの高齢者が使用するため、徐々に減ってきている状況にある。自身は公共交通は電車を利用するくらいだが、バス運行がある市街地が羨ましい気持ちがある。
- 矢口会長 デマンドタクシーは運行内容の充実を図っており、高校生が通学に利用できるよう、朝の運行時刻を変更するなどしている。バスと違って自宅まで迎えに来る乗り物であるため、利便性が高い面もある。ご利用いただきたい。
- 平向委員 松山地域ではデマンドタクシーの利用が増えているが、何が要因か把握しているか。また、取り組みを工夫した点はあるか。免許返納したとの声も聞こえてきており、そのような部分が影響しているのか伺いたい。また、庄内町線の利用に関しては、指定乗降場所の変更についても分析があればお願いしたい。
- 佐藤課長 細かい要因まで分析できていないが、地域の中で、利用しなければならない層の方が増えてきているのだと思う。免許返納の増加に加え、デマンドタクシーがロコミで広がっていることも要因のひとつだと考える。  
庄内町線については、利便性を考慮して指定乗降場所を変更した。引き続き周知に努めていきたい。
- 佐藤正委員 平田地域では、8 月からデマンドタクシーの運行が始まったばかりである。利用した方の話では、自宅から乗車できて良いということ、自宅に帰る際に指定乗降場所がどこにあるのかまだ把握できていないということ、以前より時間に余裕があって良いということである。
- 池田委員 るんるんバスは医療機関への受診などで利用されており、生活の一部である。冬季間の降雪でバス停のまわりに雪が山のように積もっていたため、足に障がいがある方がバスに乗れなかったという声があった。
- 佐藤課長 昨冬は雪が多く、多くの方からご相談いただいた。随時、職員が除雪対応を行ったものの、積雪に追い付かず、ご不便をおかけして申し訳ない。障がいがある方でも利用しやすいよう、どのように効率的に対応していけるか、昨冬の反省点を生かして考えていきたい。
- 神田委員 酒田駅前のバスベイ完成、ミライニのグランドオープンなど、利便性が向上しており大変素晴らしい。今後、数値指標であるバス路線 1 キロあたり利用者数をどう伸ばしていくかが課題だと思う。  
利便性向上も重要だが、移動する目的がないと利用は増えない。ミライニの完成は公共交通を利用するためのひとつの目的になると思う。MaaS の取り組みでスマートフォンを使用するデジタルチケットを販売し、例えばミライニのイベントと公共交通の利用をセットにして、バスを利用した方がお得になる仕組みも良いのではないかと思う。また、自転車シェアリングの仕組みを構築し、

降車地からは自転車で移動するといったように、地域公共交通計画の中に自転車を上手く位置付け、活用していくのも良いのではないかと思います。

デマンド交通のエリアが拡大したわけだが、比較的、運賃が高くなることで買い物や通院以外の娯楽、交流といった外出機会が減少し、いわゆるフレイルの問題に繋がりがやすいと考える。デマンドタクシー運行エリアでどう外出機会を増やしていくかが課題。そこで、1か月あたりの利用額が定額となるサブスクリプションの制度や、誘い合って複数で乗車すると運賃が割引になる制度など、外出を促す取り組みが健康増進に繋がりが、介護保険料や医療費の軽減を含め、トータルな視点で検討すると良いのではないかと考えている。

佐藤課長 公共交通は、鉄道を含めて厳しい状況にある。公共交通だけの視点ではなく、利用者が楽しめるような仕組みを検討しなければならない。全国的には、大きなコストをかけなくても工夫した施策展開でバス利用者が増えている事例があると聞いている。神田委員からの提案を含め、これらの事例を参考にしながら、利用者の増加に結びつくような施策を検討していきたい。

岡部委員 8月からデマンドタクシー運行エリアが拡大し、運行時刻も変更となった。当初は予約を受けきれぬか心配していたが、大きな問題は発生していない。運行日が増えたことで利用が平準化したこともあると感じている。引き続き、都市デザイン課と連携しながら取り組んでいきたい。

村委員 8月にバスターミナルもミライニへ移転し、順調に稼働している。先ほども話があったが、鉄道の利用者が減っており、厳しい状況となっていると公表された。遠くない将来、どう対処すべきかという問題が出てくると思う。酒田市単独での話ではないかもしれないが、JR東日本、酒田駅からオブザーバーといった形で出席してもらい、基本的な考え方や進め方の話を聞くといった機会があっても良いのかなと感じている。検討いただきたい。

加藤委員 酒田市地域公共交通計画における数値指標の動向について報告されたが、行政負担の状況もなかなか厳しいと感じている。目標値はコロナ渦の影響を織り込まない状況で定めていると思うが、今後も輸送人員の減少トレンドが継続すると思われる中、利用促進の取り組みを行いながら、目標値に対する動向を注視していく必要があると感じている。

福祉タクシーの導入に関して、国土交通省では福祉車両の台数に目標を設けており、2025年度末までに全国で9万台、各都道府県で総車両数の25%を目指している。山形としては25%に達していないが、酒田市だけで見れば30%を超えているということで、事業者の皆さんが積極的に取り組んでいることに感謝したい。予算の範囲内という制限もあり、すべての要望に答えきれていない部分もあるが、皆さんと連携しながら進めていきたい。

## 6 その他

矢口会長 委員から何か提案などはあるか。事務局から何かあるか。  
佐藤課長 事務局からは特になし。

矢口会長 8月1日に交通体系の改編を行ったが、今後もPDCAを回し、限られた予算や輸送資源、運転手を有効に活用しながら連携を高めていきたい。引き続き、利用者、特に学生や高校生、観光客の方などの意見も聞きながら、皆で力を合わせて良い交通体系をつくっていきたく願っている。ご意見があれば、随時、事務局である都市デザイン課までご連絡いただきたい。

## 7 閉会